

### 岩本克美議員



#### 町長、3期目は?

「町長選挙について伺う」  
◎本年9月の任期満了に伴う町長選挙に、青木健町長は3期目を目指して出馬する意向があるか?

◎私は、町長職就任以来、その責務の重大さを胆に命じ、政治・行政は誰のためにあるのかを自らに問い続けてきました。「教育や文化、環境、福祉」など各分野で、ナンバーワンよりオンリーワンを目指してきました。私一人の力は小さいが経験と実績を生かし、職員と共にひたむきに取組んでまいりたいと思います、その決意をここに表明いたします。

◎前回町長選挙で町民に約束した公約をどう評

価するか。また、今後の課題は何か?

◎1期目の取組では、厳しい社会経済情勢の中で、自立した町の運営を進めるための基礎をさまざまな取り組みの中で、作り上げてきたと考えています。2期目には、第4次総合計画を手掛け、真鶴町が向かうべき明日に続く道筋を立てさせて

いただきました。役場組織の見直しにより、職員数の適正化を実施、機構改革等による人件費の削減を実現。平日の窓口業務時間延長や土日、祝日に窓口を開庁、町民の皆様への利便性向上を図りました。

◎町民へのサービス向上事業では、子育て支援制度や学童保育、妊婦健診の公費負担や小児医療費補助の対象拡大がありま

す。高齢者の外出支援としてコミュニティバスの運行や、福祉車両「アモレ号」の運行がありま

す。学校教育の面では、小学校へのスクールバスの運行、学校給食の食材放射能検査を行い、安心して

学べる環境づくりに取り組んでおります。

◎広域行政に関しては、上水道の受水に伴う責任水量の問題、下水道事業における負担金の調整、1市3町によるごみ処理広域化の検討にも取り組んでまいりました。

◎観光振興事業では、新たな体験観光・体験学習の場として、海の学校の設置や遠藤貝類博物館の開館、冬花火の実施や源頼朝船出の浜イベントの実施など、にぎわい創出に努めております。

◎公共事業では、真鶴港、岩漁港の整備に着手、将来懸念される災害対策では、瞬時放送設備Jーアラートの整備、津波避難対策、急傾斜地崩落対策

工事の実施、地域防災計画の見直しや津波ハザードマップの改定など、さまざまな課題が山積しております。

◎今後、こうした取り組みをさらに実のあるものにしていくため、粉骨砕身していく所存です。

◎



## 一般質問

### 板垣由美子議員



#### 資源ごみを活用!

「ごみの減量化と再資源化の促進について」

◎新聞等にも報道されているが、昨年より湯河原町真鶴町衛生組合一般廃棄物最終処分場への埋立は、排水の法令上の基準値超過が判明したため中止され、今後の対応が検討されている。埋立廃棄物は焼却灰、燃え殻不燃物で焼却灰は1日約8トンも発生している。現在可燃物となっている古着を含め衣類発泡スチロールを資源ごみとして収集して再資源化を促進し可燃ごみを減らす考えは?

◎真鶴町からの可燃物の搬入量は、町民の協力により減少傾向にあります。が、更なるごみの減量化

と再資源化は重要な課題と考えます。古着については再資源化が可能となるルートや方法を検討します。発泡スチロールについては現状では分別収集はできません。

◎充電式電池や携帯電話のバッテリーなどは資源再利用のため販売店で回収されているが、現在日本で生産されている乾電池は不燃ごみと一緒に処理しても問題がないとされている。しかし気づかず乾電池を機器に入れたまま廃棄したりすると腐食し液漏れの原因となったりする。使用済み乾電池を回収するために、公共施設への回収ボックスの設置と資源ごみとして缶の日に収集する考えは?

◎使用済み乾電池の回収ボックスについては、公共施設への設置を進めていきます。収集についてはどちらの日にもできるよう行いたいですが、透明な袋に入れ他のものと混同しない様に出していただく事を徹底したい。

◎

緊急時に備え!  
「高齢者のための安心な暮らし継続への支援について」

◎2年前の3月議会で質問したが緊急時に駆けつけた救急隊員へすぐに対応する情報を提供する救急医療情報キットを独居高齢者世帯へ配布し安心のよりどころのひとつとする考えは?

◎昨年、東日本大震災が発生し、特に独居高齢者への見守り、安否確認活動の重要性が再確認されこれらの事業に対する補助制度が急ぎよ始まりました。町ではこの補助を受け「真鶴町支え合い分かち合い体制づくり準備委員会」を立ち上げています。この中で対象となる高齢者世帯へ配布することを計画しています。

